

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会
(第 24 期・第 1 回)

議事録

1. 日時 平成 30 年 12 月 18 日 (火) 16:30-18:30
2. 会場 日本学術会議 5-C (2) 会議室 (5 階)
3. 出席者(五十音順、敬称略): 相澤 清晴、安達 淳、喜連川 優、木村 学、久留島 典子、澁澤 栄、高木 利久、引原 隆士、村山 泰啓、渡辺美代子
4. 議題
 1. 役員の選出
 2. 本委員会設置について
 3. オープンサイエンスに関する意見交換
 4. その他
5. 配布資料
 - 資料 1 オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会設置要綱
 - 資料 2 課題別委員会設置提案書
 - 資料 3 オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会
 - 資料 4 オープンサイエンスの国際潮流と学術データのあり方の議論について(村山)
 - 資料 5 14thBerlin Open Access Conference 報告および関連する話題(安達)
 - 資料 6 オープンサイエンスに関する基盤構築についての海外動向 (山地)
 - 資料 7 オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 (引原)
6. 議事
 1. (役員の選出) 事務局の司会の元に開会し、定足数の充足が確認された。委員の自己紹介の後、委員長に喜連川委員を選出、委員長より副委員長に引原委員、幹事に安達委員と村山委員が指名された。
 2. (本委員会の設置について) 渡辺委員から資料 1 および 2 を幹事会が承認し検討委員会の発足に至ったことが説明され、喜連川委員から、委員会の趣旨や発足の経緯等の説明があった。
 3. (オープンサイエンスに関する意見交換) 委員長から、本委員会に関係するテーマに関して 4 人の委員等に話題提供を依頼してある旨説明があり、資料に基づき説明された。
 1. 村山委員から「オープンサイエンスの国際潮流と学術データのあり方の議論について」として、ICSU の元での CODATA および WDS の活動、オープンデータと FAIR 原則、データのオープン化の国際的な流れ等についての発表があった。

2. 安達委員から「14thBerlin Open Access Conference 報告および関連する話題」として、12月初頭に開催された会議における議論の要点の紹介があった。
3. 国立情報学研究所の山地一禎先生から、「オープンサイエンスに関する基盤構築についての海外動向」として、**European Open Science Cloud**を中心に国外での活動と日本での最近の動きについて説明があった。
4. 引原委員から、我が国の大学図書館での動きを中心に関連する課題について説明があった。
4. （オープンサイエンスに関する意見交換） 主な意見は以下の通り。澁澤委員からスマート農業におけるデータの利用、木村委員から地球惑星科学分野におけるデータ共有、高木委員から情報に加えて資料の保存の課題、相澤委員から情報学における論文執筆とデータに関して、久留島委員から人文系での資料の共有の状況について、それぞれ発言があった。
5. （その他） 渡辺委員から、会長から2019年7月の幹事会までに提言をまとめるよう要請があったことが紹介された。

以上